

2021 年漁期における 2017 年級アサリの利用可能な資源量

福島県水産資源研究所 資源増殖部

部門名 水産業－栽培漁業－アサリ

担当者 佐藤利幸

I 新技術の解説

1 要旨

松川浦のアサリ資源は、2013 年級及び 2017 年級で構成されている。極めて水準の高い 2013 年級の資源量は、2017 年をピークに大幅な減少傾向にあり、今後もこの傾向が続くとみられる。

発生水準は高いが成長が停滞していた 2017 年級に明瞭な成長が確認され、資源量は個体の増重により増加した。このうち 4 割を占める漁獲サイズ未満の個体が、2021 年漁期中に全て漁獲サイズに成長し、利用可能と推定された。

- (1) 2020 年の推定資源量は、2013 年級は減少し 281 トン、2017 年級は増加し 270 トンであった (図 1)。
- (2) 2017 年級の殻長は、2019 年 8 月時点で平均 24.9 mm で、通常の成長より約 1 年遅れていたが、その後、2020 年 7 月には 29 mm、同年 11 月には 32 mm まで成長した (図 2)。
- (3) 2017 年級の分布密度は、2020 年に 80 個体/m² と大きく低下しており、このことが成長を促進した要因と考えられた (図 3)。
- (4) 2017 年級の推定資源量は、2020 年漁期後の 11 月時点で、殻長 35 mm 未満が約 4 割、113 トンであった。この資源が 2021 年漁期中に全て漁獲サイズに達すると見込まれ、増重により約 146 トンが加入し、約 303 トンの資源が利用可能と推定された (図 4)。

2 期待される効果

- (1) 資源水準を提示し、資源の積極的利用を提案することで、アサリ操業の本格化に向けた、漁業関係者の協議が促進され、本格操業再開による漁獲量の増加が期待される。

3 適用範囲

- (1) 松川浦のアサリ操業従事者、水産関係行政・研究機関

4 普及上の留意点

- (1) 資源の減耗を最小限に止めるため、食害生物駆除を徹底する必要がある。

II 具体的データ等

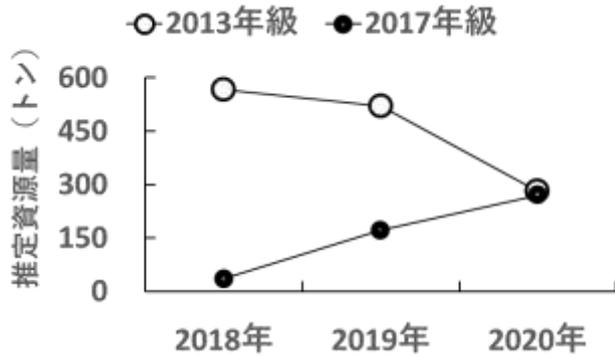


図1 年級別のアサリ推定資源量の推移

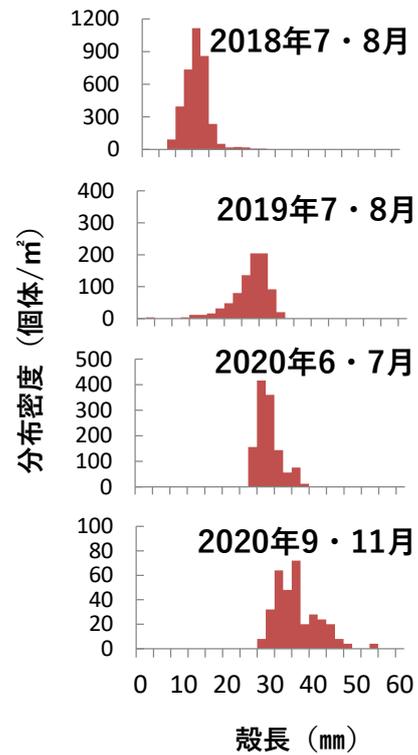


図2 2017年級の殻長組成の推移 (川口前)

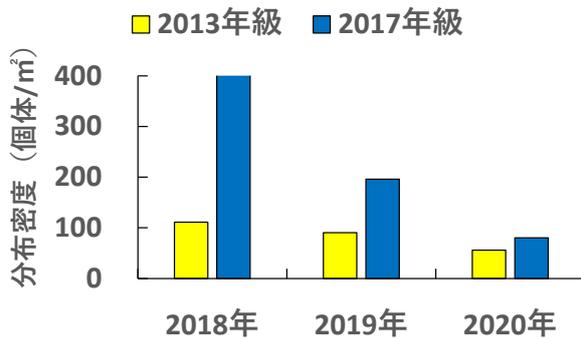


図3 年級別の分布密度の推移

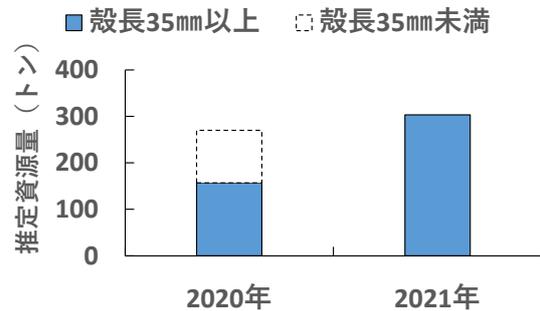


図4 2017年級の漁獲サイズの資源量

III その他

1 執筆者

佐藤利幸

2 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成28～令和2年度
- (2) 研究課題名 松川浦の増養殖の安定化に関する研究

3 主な参考文献・資料

- (1) 松川浦におけるアサリの漁場別密度と資源量, 平成29年度普及に移しうる成果
- (2) 松川浦における2017年級アサリの分布密度, 平成30年度普及に移しうる成果
- (3) アサリ資源の維持と品質向上を図る漁場間移植の提案, 平成31年度普及に移しうる成果